

# 養殖モクズガニ成長順風

広島市安佐北区小河内地区の地域おこしケループ「Oプロジェクト」が、養殖実験に取り組むモクズガニの成育が順調だ。養殖を始めた昨年9月に約1匹だった甲羅の幅は、大きい個体で3㌢以上に成長。目標とする2年後の出荷開始に期待が膨らんでいる。

(有岡英俊)



成長したモクズガニ



安佐北区小河内の住民 昨秋開始

## 7割近い生存率 2年後出荷期待

太田川水系の特産で、河川改修などの影響で激減したモクズガニの復活を目指す

実験は、地区内の自治会が市の農山村地域活性化事業の指定を受け、プロジェクトを主導に始まった。昨年9月、休耕田に造った養殖池(縦2㍍、横8㍍、深さ1㍍)に稚ガニ約2千匹を放した。近くに住む三

市水産課と三国さんが今年6月に調査したところ、約1350匹の生存を確認。約1000匹が幅3㌢以上に成長した。同課は「県内で養殖の成功例はない。7割近くの生存率で成育状況も」と話す。

プロジェクトは、住民が2008年11月、地区的少子高齢化に危機感を募らせ結成。都市部住民との交流イベントなどを続けていく。

プロジェクトは、力二を幅5~6㌢に育てて、2年後に出荷、販売する計画である。これまでに養殖池を2カ所増設。今春、新たに稚ガニ約2千匹を放した。安福孝昭代表(72)は「ますますの成果。商品化にこぎつけ、地域おこしにつなげたい」と話す。

プロジェクトは、力

二を幅5~6㌢に育てて、2年後に出荷、販

売する計画である。こ

れまでに養殖池を2カ

所増設。今春、新たに

稚ガニ約2千匹を放し

た。安福孝昭代表(72)

は「ますますの成果。

商品化にこぎつけ、

地域おこしにつなげた

い」と話す。

プロジェクトは、住

民が2008年11月、

地区的少子高齢化に危

機感を募らせ結成。都

市部住民との交流イベ

ントなどを続けてい

る。

養殖池でモクズガニの成育状況をチェックする三国さん